みやこ町犀川本庄、ドローンにて撮影 2021年9月

仏法領

ぶっぽうりょう

第85号

発行：真宗大谷派
念信寺
〒824－0202
福岡県京都郡みやこ町犀川上高屋761
☎　0930-42-0329
Fax 0930-42-0502
ホームページ
nenshinji.org

「人とのお別れ」

コロナウイルスの蔓延で世界中で、生活様式が変化した。

人とのお別れも、その一つかもしれない。

家族葬を選ぶ家族、あえて逝去を知らせない事もある。とても寂しい事です。

最後のお別れを言えない、亡くなられた方を偲んで、思い出話も出来ない。

親戚が集う事も出来ない。

これまで、冠婚葬祭の中で日頃会えない人を気遣い、成長や老いも感じていた。

あたり前だった事が、出来なくなっている現実がここにある。

人類は今まで、幾度となく疫病に立ち向かい克服してきた。

コロナウイルスなんかに、負けるわけにはいかない。

人としての生活を取り戻すために一人一人が、色んな事に向き合う必要性を感じている。

浄真寺の仏具、燭台の足の亀

コロナ下の仏事

コロナウイルスが流行ってから、最近はごく近親者での葬儀ばかりになりました。コロナが収まっても、おそらくバブルの頃のような盛大な葬儀にはならないでしょう。時代社会ができるだけ人とかかわらず合理的に済ます風潮のようです。

現世的なものを重んじる風潮や少子化・核家族化の影響もあり、お寺とのおつきあいも少しずつ薄れてきているようです。

左の写真には本庄地区の浄真寺が写っています。公民館・旧犀川町役場前の道は、地元では「新道（しんみち）」と言って主な道路になっています。以前はおそらく浄真寺の前が山鹿方面から抜ける街道筋だったと思われますが、現在は少し奥まった場所になっています。時代社会の移り変わりとともに、あたりまえですが生活の仕方も変わります。

右上写真の燭台の亀は浄真寺に伝わる仏具で、寄付されたものです。見ていると、熱心な同行さんたちを思い出しその温もりが伝わってきます。生きることの辛さ、悲しさ、温かさがあります。本当に大切なものは何かを訴えかけています。

生活の仕方は変わっても、生きていく本質は変わりません。大切なものを選び取る岐路に今さしかかっているようです。

ひと

今回も思い出に残るお同行さんたちを前坊守村上悦美に紹介してもらいます。

思い出の方々

白川春三（はるぞう）様（上高屋）

法名満春院釋念西　寿算九十一歳

平成元年（一九八九年）三月十九日お浄土へ

三十年間のお導きであった。一々（いちいち）を書いてみましたが、羅列しきれなかった。

とにかく村のお同行さんの代表であった。四日市別院御正忌にご奉仕、お参りの留守中、大変なことが起こった。就学前のお孫さんが寒風の強い日、川の事故で亡くなられた。近所の私たちも動転した。しかし春三さんは慟哭を秘めながら「この世は何が起こるかわからない所、ナンマンダブ〳〵」と動じられなかったとお聞きした。

晩年は永らく床に就かれていた。お寺の御正忌の立華の材料採りにお庫裡の玄関前の樅の大木（明治末の念信寺移転の前からそこにあり、現在も歴史を刻んでいる）に登り落下されたそうで、本人からもご家族からも一言も聞いていなかった。

考えてみれば春三さんの生き様はこの世を越えたお導きのなかでの、ほのかな常夜灯であると知らされる。

慈悲の中白萩楚々と灯りをり
無辺の影の揺れ止まずして

ありがとうございます。白川さんは仏法相続のお家です。ようこそ、ようこそ。

合掌

近い肉親の死で思う事

吉田昭和（北九州市小倉北区）

先日、朝七時頃電話が鳴った。田舎の叔父からの電話で、私と同じ年齢の従兄が亡くなったという知らせであった。予期せぬ事で俄かには信じられなく、聞き返したがやはり真実であった。昨年の叔母の死に続き、血の繋がった肉親がまた旅立った。数日前に、体の異常を感じ、病院に行ったが、遅かったそうである。

彼とは家族の境遇が似ている。私達の一歳上の兄達が一歳で亡くなり、その後に私たちが同じ年に生まれたのである。

彼は内垣に、私は小倉にと住まいは別となったが、夏休みには内垣で大いに遊び、魚とりや山遊び等沢山彼に教わった。男兄弟のいない私には兄弟の様な存在であった。

これから内垣の事では、彼に教わらなければと思っていたのに、残念である。

葬儀はコロナ禍であり、家族、親族のみの寂しいものであったが、最後の別れの時に、家族はもちろん親族の人も皆、亡き彼の遺体に花を手向けながら、（有難う）と言い別れを惜しんでいた。

彼がいかに家族、親族に慕われ、大事な人であったかが窺われた。今頃あの世で、両親、兄と再会して、話しが弾んでいる事と思う。ゆっくり休んで欲しい。

「有難う」

この歳になると、血の繋がった肉親の訃報に接する機会が多くなる。悲しい事ではあるが、皆、感謝されながら、見送られている。

お参りの日々

念信寺衆徒　村上　宣（とおる）

暑い夏がようやく過ぎ、９月となりました。皆さんご無事にお過ごしでしょうか。

今年は日本中、どこもかしこも大変な思いをした夏だったと思います。北海道も例外ではなく、気温35度以上の日が長く続き、まともに雨が降らなかったため、農家の方々は悲鳴を挙げていらっしゃいました。お寺の方も、北海道の家にはエアコンがなく扇風機が主なため、お盆参りは汗をだらだらと流しながら行われ、「今年は大変だ」と言っておられました。

そんな大変な時期が過ぎ、9月になると今度は途端に寒くなり、20度前後を行き来しているようなところです。これからは坂を転げるように寒くなるとの事で、6月寺報でも書いたように、冬が恐ろしいばかりです。

今年も約9ヶ月が過ぎまして、北海道に来て既に4ヶ月になろうとしています。しかし、お寺のお仕事ということとコロナもあって、外に出るのは躊躇われ、北海道を見てまわるようなことは出来ずにいます。それが不幸か幸いかは分かりませんが、これといって変わったようなことのない、お参りに行ってお寺のことを少しずつ手伝って家に帰るという、なんでもない日々を過ごさせていただいています。不満もありつつ、満足もしつつという感じですが、私は元気にしています。皆さんもまた、そのような平穏な日常を過ごされていることを北海道から願っています

新納骨堂委員会からのお知らせ

皆さんご承知の通り現納骨堂は昭和42年12月に完成し、今日に到るまで修理等を行ってきましたが、老朽化、劣化が激しく大規模改修か建替えかの議論を重ねて来たところであります。最終的には6月の臨時総会にて建替えに決まりました。

新納骨堂の大きさは現納骨堂とほぼ同じですが、木造耐火構造で屋根瓦は準本葺き（鐘撞き堂と同じ）であります。より良い納骨堂建設のため見栄えだけでなく、会員の方々が利用しやすく管理も出来るだけ簡単に済むよう、住職を中心に委員会で議論を重ねているところであります。皆様のご理解とご協力をお願いします。

最後になりますが、来年3月末完成の予定です。完成した際はぜひ見に来て下さい。

新納骨堂建設委員会
委員長　大庭誠司

新納骨堂建設にあたって

背景と願い

現在の納骨堂は昭和42年12月に竣工。当時、鉄筋の建物は半永久的に保つと思っていたようです。数年前に大修理しましたが、54年経過して鉄筋そのものが傷んで建替えは必須でした。

建設時の挨拶状には「ふるさとに納骨堂を作ろう」と記載されています。当時からは世相も変わり、目先の利害を優先するようになってきましたが、お骨は物ではなく、納骨堂は歴史を背負った「いのち」をいただく場所であり、単なる建物ではありません。宗教上の施設です。

新納骨堂の加入をためらっている方にも何らかの形でお寺で受けいれるための形を作りたいと考えています。

今の若い第2世代は、父母の第1世代がこの犀川の地を離れて既に故郷（ふるさと）ではなくなっているかも知れません。しかしまたその次の第3世代はどこが故郷になるのでしょうか。「故郷喪失（こきょうそうしつ）」とは、先進工業国ではすでに半世紀以上も前に言われていたことです。

「私はどこから来てどこへ行くのか」、欲の中で何もわからぬまま自我に振り回されて命終わってゆくのか。そのような問いが漠然とした不安というかたちで現代人の心を悩ませます。人間本来の「故郷」が求められ、今後そのような要求はますます切実になることでしょう。

だからこそ、真に応答するほんとうのことが求められています。またそのための施策や施設、組織の改編も必要になることです。

具体的には納骨堂建て替え、永代供養墓建設、本堂伽藍の整備、遠距離でのリモート法事、法座の充実等です。

この度の新納骨堂建設がそのような宗教事業の一環として門信徒やそれ以外の方々の深い要求に応え、心を掘り起こすご縁になればと念じています。

建設委員会委員

建設委員会委員は、12名で構成される。

役　職	建設委員会委員氏名	上高屋区内 ／ 区外
相談役	念信寺住職	ー
委員長	大庭　誠司	上高屋区内
副委員長	持田　末男	上高屋区内
副委員長	村上　知則	上高屋区内
会　計	白石　博山	上高屋区内
監　事	坂本　絹代	区外
監　事	江口　肇	区外
委　員	中野　正壽	上高屋区内
委　員	緒方　義則	上高屋区内
委　員	村上　正夫	上高屋区内
委　員	荒尾　修	区外
委　員	西村　幸吉	区外

納骨堂建設委員会役員

これまでの経緯

■二〇一八年　建設後50年以上経過し、老朽化したため今後のことを管理組合で話し合う。
■二〇一九年1月　アンケート（シュミレーションをもとに、補修か建て替えか）
■二〇二〇年アンケート結果をもとに、建て替えの検討
■二〇二一年
□4月10日納骨堂管理組合総会、アンケート結果の報告と業者見積もりの報告
□6月26日臨時総会
納骨堂の建て替えについて、残金の扱いについて決議
これまでの組合は解散
□8月22日新納骨堂建設のための総会
納骨堂建設委員会の結成
建設委員の選任
□建設は「飛鳥社寺」、納骨壇は「はせがわ美術工芸」に決定
□竣工は二〇二二年三月末予定

納骨堂建設にあたって

株式会社飛鳥社寺（あすかしゃじ）
代表取締役　阿部直樹

■株式会社飛鳥社寺について

福岡県太宰府市に本社を置き、社寺建築を専門とする設計施工会社。

伝統的な木造社寺建築だけでなく、境内地に計画する建物であれば鉄骨造・コンクリート造などの構造を問わず、お寺様のご要望に応じて建築法規に準拠した伽藍を設計施工できる能力を有する「社寺建築専門の小さなゼネコン」。

本堂・鐘楼・山門・納骨堂や庫裏会館などの新築計画だけでなく、それぞれの改修工事を含めて多数の工事実績があります。

ホームページ　https://asukashaji.co.jp/

■念信寺様新納骨堂について

令和４年春に建立します念信寺様新納骨堂は、「木造耐火建築物」という近年に制定された建築法規を運用した建物で、木造の納骨堂としては九州で数例しかない仕様によって建築確認申請を行います。

新納骨堂の堂内は、明るく広くなってお参りしやすくなり、また、出入口に斜路を設置することで車椅子に対応したバリアフリーとなっています。

完成予想CG

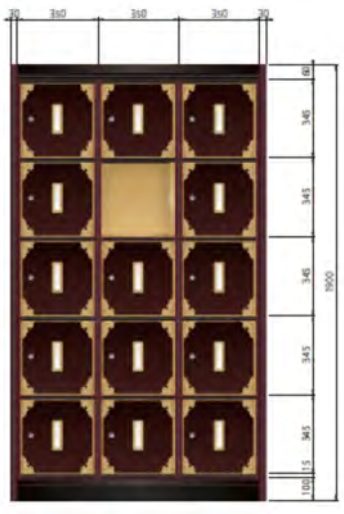
建築法規に準拠した使い勝手の良い建物を、境内地に相応しい伽藍として計画することで、近年建立された鐘楼堂と共に、境内地の伽藍を整える役割に寄与できるのではないかと考えております。

納骨の形式

一段型納骨壇

□納骨壇は一段型は棚が3つあり、6寸の骨壺は6個、5寸は12個収納。75万～80万円の予定。60区画
□納骨堂加入者はオプションで永代合葬墓に優先的に入れます。

多段型納骨壇



□多段型は一区画に骨壺6寸2個、5寸2個入ります。11～18万円の予定。25区画

秋のお彼岸法要ご案内

八月のお盆は大雨が降り続き、最近は少し蒸し暑く感じます。皆さまいかがお過ごしですか？

さて、秋のお彼岸法要を左記のように勤めます。今回も距離をとって座れるように、地区ごとに振り分けしておりますので、できれば表の左下の日にお参りくださるようにお願い致します。当日のご都合が悪い場合はいずれの日でも構いません。

※マスクの着用をお願いします。
お茶は各自ご持参ください。

合掌

記

一、日時　十月二日（土）、三日（日）の二日間

一、講師　瓜生（うりゅう）　崇（たかし）　先生

滋賀県東近江市　玄照寺住職
日本脱カルト協会理事
響流書房代表

期日	法座　昼席	地区ごとのお参り予定お願い
10月2日（土）	午後1時30分	伊良原・横瀬・上木井・下木井・犬丸・内垣・下本庄・松坂・他地区※
3日（日）	午後1時30分	上本庄・鐙畑・上高屋・他地区※

※他地区とは、豊津・築上・行橋・苅田・田川・北九州等です。

コロナ対策として

●マスクの着用をお願いします。●お茶は各自ご持参ください。
●法座は2日間午後のみです。
●出来れば地区指定の日にお参りください。
●本堂の椅子は余裕をもって配置し、換気に努めます。
●体調の不安がある場合はご遠慮ください。

法座予定

二〇二一年

●ご正忌・報恩講
十一月二十一（日）～二十四日（水）予定

講師　三明　智彰
九州大谷短期大学学長

総代会議報告

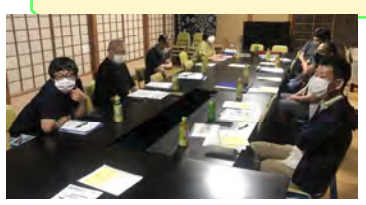
皆作総代会

日時
2021年6月24日（木）午後2時

出席者
責役・総代4名、住職・坊守

議題
・本山納金について
決算報告並びに今年度依頼
・その他

決定事項
・本年度の本山納金は5,000円。秋彼岸に納めていただくことになりました。宜しくお願い致します。



7/28京都組御遠忌団参会議

6/24責役総代会議

お寺の活動

リモート法事

●大分市の霍田家よりご法事の相談を受け、リモートで行いました。

鶴田さんの感想は、子供たちが県外に出るときは、学校に報告し、2週間休まなければならないので助かりました。ただ、お年寄りは理解がむつかしいのではないか、と。

今後の課題は、機材がまだ不十分で、画角その他に問題があり、Wi-Fiの接続も充分でないということでした。

9/12リモート法事、大分市

2020/8/15初盆はお寺で

●もう一軒、初盆をリモートで行いましたが、まだ試験段階です。

6/26，27皆作法要

8/14本堂雨漏り

皆作法要講師、武井弥弘先生

8/15浄真寺納骨堂お参り

8/11神奈川高田家初盆上げ仏事

7/3福岡霍田家上げ仏事

8/3お盆のおみがき

6/26納骨堂総会

あとがき

本号は「コロナウイルス下の仏事」がテーマでした。

寺報を作成していつも思うことですが、行事の連続でちょうど輪っかを回すハツカネズミに似ているなあと。自分では一所懸命のつもりでも、結局それにどんな意味があるんだろうか。よく考えた方がいいんじゃあないかって。だけど、回すのを止めたからって怠けるだけなのもわかってます。

季節は移ろいすっかり秋らしくなりました。昨年同様、今年もまだコロナウイルスから離れられない日々が続きます。会議や上げ仏事で多くの方が来寺され、その殆どの方はワクチン接種済みですが、マスクやディスタンスなど皆さんコロナ対策が板についていて、煩わしいことも全て日常習慣になりました。みやこ町でも感染者が出ていると聞くとまだ油断出来ませんが、早くコロナが終息してマスクなしでお話がしたいと思います